

児童作文の評価に向けた脱文脈化観点からの検討

田中 弥生
神奈川大学・国立国語研究所
yayoi@ninjal.ac.jp

佐尾 ちとせ
関西学院千里国際中等部・高等部
csao@senri.ed.jp

宮城 信
富山大学
miyagi@edu.u-toyama.ac.jp

1 はじめに

作文はこれまで、使用語彙や漢字の割合などの文字表記、文の種類や構造など様々な観点から評価されてきた [1, 2]。本研究は児童の文章作成能力の評価等の包括的研究に向けたパイロットスタディの位置付けで、児童によって書かれた作文の、テーマによる違いと学年による違いを、脱文脈化程度の観点からどのように捉えられるか検討するものである。

脱文脈化程度とは、コミュニケーションが行われている「今・ここ・わたし」の時空とその発話内容との、時間的・空間的距離の程度をさす。教室授業では、情報の“脱文脈化”と“文脈化”という二つの知的作業を子供達に課しているという [3]。また、「学校での多くの学びは、実生活の状況とは切り離され、脱文脈化された概念的な知識の獲得にむけられ」「日常の生活文脈に密着した状況的な思考から、日常の生活文脈から切り離された抽象的で無性格的な思考に慣れることが重要な課題となる」([3, 33]) とされる。これを作文にあてはめて考えると、学年があがるとともに、脱文脈化した表現を使用できるようになることや、脱文脈化した表現と文脈化した表現を操作できるようになることが考えられる。例えば、餅つきという行事を「年末に僕は餅つきをしました」という文脈化した個人的な体験として述べることも「僕たちの町内では毎年餅つきを行います」のように脱文脈化した表現で示すこともできる。さらに「餅つきは日本の伝統行事の一つです」のように一般化された知識として述べることも可能である。このように必要に応じて伝えたい情報を文脈化、あるいは脱文脈化させて文章を構成していくわけである。

脱文脈化の観点からの分析には、修辞ユニッ

ト分析¹⁾[6]の分類法を用いる。発話機能 (speech function)、中核要素 (central entity)、現象定位 (event orientation) の認定結果の組み合わせから修辞機能と脱文脈化程度を知ることができ、談話や文章においてどのような修辞機能が用いられているか、使用されている言語表現は脱文脈化程度が高いか低いか(「今・ここ・わたし」から遠いか近いか)、という観点からの検討が可能になる。これまで、成人や子供の談話、ネット上のQAサイトなど様々なテキストを分析し、児童生徒の作文については、脱文脈化の様相と教員の評価の関連を検討している [7]。

本発表では、児童によるテーマの異なる作文の修辞機能と脱文脈化指数の出現頻度を確認して、(1) テーマによる違いと学年による違いを検討し、(2) 特徴的な作文について修辞機能と脱文脈化指数の現れ方を検証する。

2 分析対象と分析方法

2.1 分析対象

分析対象は『児童・生徒作文コーパス』[8, 2]に含まれる作文で、作文のテーマは「ゆめ(夢)」(以下、夢作文とする。)と「ぼくの／わたしががんばったこと」(以下、がんばった作文とする。)である。このテーマは、先行研究を踏まえて、抽象的なものと生活文脈的なものということで決められ、「夢作文」については、将来の夢と就寝時に見た夢のいずれかという指示は行なっておらず、様々な内容が収集されている [2] という。本発表では、小学校低学年 (1, 2年)、中学年 (3, 4年)、高学年 (5, 6年) の3つの層に分け、「夢作文」と「がんばった作文」のそれ

1) Rhetorical Unit Analysis [4, 5] を日本語に適用したものである。

ぞれ5作文ずつ、計30作文を分析対象データとして用いた。低学年、中学年、高学年の、「夢作文」及び「がんばった作文」それぞれの平均文数（四捨五入）と同じ文数で、短単位数が平均（四捨五入）に近い作文を選んだ。中学年では「夢作文」と「がんばった作文」の両方で短単位数平均が同じ作文が2つあったため、文節数と文字数が平均に近い1つを選択した。表1にデータの概要を示す。

表1 分析対象データの概要（短単位と文字数は平均値）

学年	テーマ	1作文文数	短単位数	文字数
高	頑張ったこと	14	319	490.6
	夢	14	306.8	508
中	頑張ったこと	15	294	493.8
	夢	12	260.2	437
低	頑張ったこと	10	170.8	304.4
	夢	7	131.6	238.6

2.2 分析方法

修辞機能と脱文脈化指数の確認には修辞ユニット分析²⁾[6]の分類法を用いる。以下に概要を示す³⁾。

2.3 分析単位への分割と種類の認定

分析単位の「メッセージ」は概ね節に相当し、4種類に分類する。「位置付け」は分類対象外で、「拘束；意味的従属」は単独では分類しない。「拘束；形式的従属」と主節の「自由」について、以下の分類を行う。本研究の分析対象の作文は、その層の平均文数と同じ文数のものを選んでいますが、文の中に「拘束；形式的従属」がある場合、1文が複数のメッセージになるため、分析対象メッセージ数は作文によって異なっている。

2.4 発話機能・中核要素・現象定位の認定と修辞機能・脱文脈化指数の特定

メッセージの種類が「拘束；形式的従属」及び「自由」と認定されたメッセージについて、発話機能・中核要素・現象定位を認定する。図1に示したように、これらの組み合わせから、修辞機能と脱文脈化程度が特定される。

図1と図2の数字は脱文脈化指数で、図2に示すように、その会話の場（今ここ）に最も近い（脱文脈化指数が低い）ものから、最も遠い（脱文脈化指数が高い）ものまで配置されている。

発話機能は2種類に分類する。「その本を取ってください」のような会話当事者がいるその場での品

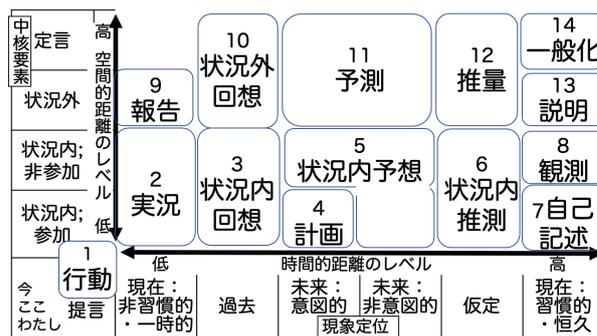


図1 発話機能・中核要素・現象定位からの修辞機能と脱文脈化指数



図2 脱文脈化指数

物・行為の交換に関する提供・命令は「提言」で、この段階で修辞機能【行動】と脱文脈化指数<1>⁴⁾が特定される。情報の要求・提供は「命題」で、この後の分類を行う。

中核要素は、話し手と発話内容の空間的距離を表すもので、基本的に主語である⁵⁾。メッセージの送り手や受け手のいる場に存在する人や事象が中核要素の場合は「状況内」で、下位分類として、メッセージを伝達する当事者は「状況内; 参加」、伝達していない人や事象は「状況内; 非参加」に分類する。中核要素がその場に存在しない人や事象の場合は「状況外」、普遍的な性質などを述べているメッセージの主語は「定言」である。中核要素が省略されている場合には復元して認定する。

現象定位は、話し手と発話内容の時間的距離を表すもので、基本的にテンスや時間を表す副詞などによって表現される。「過去」「現在」「未来」「仮定」に分類する。「現在」は、普遍的・習慣的か、一時的かの下位分類がある。「未来」は「未来; 意図的」か「未来; 非意図的」に分類する。発話機能・中核要素・現象定位の分類後、図1から修辞機能と脱文脈化指数を特定する。

2) Rhetorical Unit Analysis [4, 5] を日本語に適用したものである。

3) 詳細は [9, 10, 6] を参照のこと。

4) 以下、修辞機能を【】で、脱文脈化指数を<>で示す。

5) 主題が中核要素になる場合もある。中核要素の認定基準を現在検討中である。

表2 夢作文とがんばった作文の個々の修辞機能(脱文脈化指数)の出現頻度と修辞機能の種類

	実況2	状況内 回想3	計画4	状況内 予想5	状況内 推測6	自己 記述7	観測8	報告9	状況外 回想10	予測 11	推量 12	説明 13	一般 化14	メッセー ジ数	修辞機能 種類
			13			1	1	1						16	4
			8		1	1	1		3			1		15	6
高		1	7	1	2	1	2	1	3	1				19	9
		3	3	4	1	1	2	1		1		3		19	9
		1	6				1	1	5		1	2		17	7
が			10				1		1			3	1	16	5
ん				5		2	3					3		13	4
ば	中	2	5	2	1	5		1	1			2		19	8
っ			9	1	1		2		4					17	5
た		1	2	2		3	1		7			4		20	7
		3	5					1	5					14	4
			8	1			2		1					12	4
低			9				3							12	2
			7	2			1	1						11	4
			4	7				1						12	3
		1		2	1	1	4	1	3			2		15	8
		1	6	6		1		1	1		1	2		19	8
高		5		9				1	1			3		19	5
		5	1	1	1	1		3		1		2		15	8
		1	2		3	1	1		1	2		5		16	8
		2	6			1			6			2		17	5
ゆ		1	1	1	1	2	1	3		1		1		12	9
め	中	2		5	1	3		1						12	5
		3		2		3	1	2				2		13	6
		4	1	4				1	2			1		13	6
				1	1	7								9	3
				7								1		8	2
低			3	4					3			2		12	4
			2	1		3	1	1						8	5
		3		2				2				2		9	4

3 分析結果と考察

表2に作文ごとの修辞機能の出現と、メッセージ数、修辞機能の種類数を示した。

3.1 がんばった作文

がんばった作文では、1つをのぞいてすべての作文で【状況内回想】<3>が使用されており、自分の体験を回想して文にしていることがうかがえる。

がんばったことを表すのに、(1)や(2)のような過去形を用いる以外に、(3)のように現在形を使用しているものもある。いずれもがんばったことを述べているがその修辞機能及び脱文脈化指数は異なる。

(1)練習では、先生がきびしくて、こわくてつらかったけど、(命題&状況内;非参加&過去 →

状況内回想<3>) (中学年)

(2)十一月に最後の大会がありました。(命題&状況外&過去 → 状況外回想<10>) (高学年)

(3)わたしのがんばったことは、音楽会です。(命題&状況内;非参加&現在;習慣的・恒久 → 観測<8>) (低学年)

学年層の違いを見ると、低学年のほうが個々の作文の中での【状況内回想】<3>の比率が高い。中学年の書いた作文の中には、全く【状況内回想】<3>を使用していない作文がある。「今、ぼくのがんばっていることは」という書き出しで始まるこの作文は、「がんばったこと」という題から、がんばっていることを表現して、つまり過去ではなく現在と未来で表現している点が特徴的である⁶⁾。

6) この作文の修辞機能と脱文脈化指数などの詳細は付録の表4に示している。

3.2 夢作文

夢作文では、【計画】<4>が多く使用されている。2.1で述べたように、分析対象の「夢作文」には、将来の夢を書いたものと、就寝中にみた夢について書いたものがある。本研究の分析対象データでは、15本の夢作文のうち、就寝中に見る夢を書いたものが1本（中学年）、就寝中の夢と将来の夢の両方を書いたものが2本（中・高学年各1本）で、他の12本は将来の夢について書いている。就寝中の夢を書いた1本は、17のメッセージから成り、【状況内回想】<3>と【状況外回想】<10>がそれぞれ6メッセージと2/3を回想が占めているものの、「でもだれかはおぼえていません」【実況】<2>「その家は今はこわされてちがう家になっています。」【説明】<13>「今9さいになってもはあちゃん⁷⁾からきくととてもこわくなります。」【実況】<2>という他の修辭機能のバリエーションもあり、脱文脈化程度もさまざまで、単調ではない。

将来の夢と就寝中の夢の両方を書いた中学年の作文では、将来の夢について【計画】<4>【実況】<2>で述べ、次に最近よく見る夢を【自己記述】<7>で述べた後、「どうしてゆめを見るのか不し議になるので今度調べたいと思います」【計画】<4>と述べ、「もう一つなりたいゆめがあります。」【報告】<9>と再度将来の夢の話題を始めて、【状況内予想】<5>【実況】<2>【計画】<4>という展開で終わっている⁸⁾。

将来の夢を書いた低学年の作文の1つは、最後のメッセージ以外、各述部が「やりたいと思います」「やりたいです」「なってみたいです」「なってみたい」「かいたいです」「かいたいです」と、ほぼ【計画】<4>で構成されている。また、別の低学年の作文では、【状況内予想】<5>で始まり、その後、その夢のために自分がどうしているかを【自己記述】<7>で列挙している。いずれも単調に感じられる。

3.3 使用されている修辭機能の異なり

表3に、各層の作文で使用されている修辭機能の種類と平均値を示した。それぞれの作文の中で使用されている修辭機能の種類は、中学年高学年が多く、低学年は少ない傾向にある。各作文の値は表2の右列に示している。

夢作文で最も多い種類を用いていたのは、中学年

7) 原文ママ

8) この作文の修辭機能と脱文脈化指数などの詳細は付録の表5に示している。

表3 使用している修辭機能の種類（平均）

	がんばった	ゆめ
高	7	7.4
中	5.8	6.4
低	3.4	3.6

の【実況】【状況内回想】【計画】【状況内予想】【自己記述】【観測】【報告】【予測】【説明】の9つで、低学年では【状況内回想】【計画】【自己記述】【観測】【報告】の5つであった。図1を参照すると、これらの5つのうち4つは空間的距離のレベルが低い修辭機能であることがわかる。

がんばった作文では高学年の2つが最も多い9種類を用いていた。種類は、1つは夢作文の中学年と同じで、もう1つは【説明】の代わりに【状況外回想】を用いていた。低学年の最高は【実況】【状況内回想】【報告】【状況外回想】の4種類である。図1を参照すると、この4つは時間的距離のレベルが低い修辭機能であることがわかる。

今回の分析対象作文数が少ないことと、作文を構成する文の数が高学年中学年の方が多きことから、単純には比較できないが、このような修辭機能の異なりは作文の様子を知る一つの手掛かりになることが考えられる。

4 おわりに

本発表では、テーマの異なる児童作文の修辭機能と脱文脈化指数の出現頻度を確認して、(1) テーマによる違いと学年による違いを検討し、(2) 特徴的な作文について修辭機能と脱文脈化指数の現れ方を検証することによって、児童作文の修辭機能と脱文脈化指数による評価の可能性を検討を行った。分析の結果、テーマによって時制にかかわる特徴がみられ、学年層による違いとしては、低学年において、使用する修辭機能に偏りがあることがうかがえた。今回は30作文のみのパイロットスタディであったが、同コーパス内の作文についてアノテーションして、全体の様子を明らかにするとともに、作文評価や作文指導への知見を提示していきたいと考えている。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP19K00588, JP20H01674 の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 富士原 紀絵・宮城 信・松崎 史周. 児童生徒作文の基礎的研究: 児童生徒作文コーパスの構築と活用. *お茶の水女子大学子ども学研究紀要*, 4:9–20, jun 2016.
- [2] 今田 水穂 宮城 信. 作文コーパスを資料に児童・生徒の漢字使用・選択傾向と発達の実態を明らかにする—語彙情報つき作文コーパスの構築と学齢別語彙・漢字使用実態調査—. *漢字・日本語教育研究*, 5:4–20, 2015.
- [3] 岩田 純一. *児童の心理学*. Number 3. 有斐閣, 1995.
- [4] Carmel Cloran. *Rhetorical units and decontextualisation: An enquiry into some relations of context, meaning and grammar*. PhD thesis, University of Nottingham, 1994.
- [5] Carmel Cloran. Contexts for Learning. In *In Pedagogy and the Shaping of Consciousness: Linguistic and Social Processes*, pages 31–65. Cassell Academic London, 1999.
- [6] 小磯 花絵 佐野 大樹. 現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証—「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」と脱文脈化言語・文脈化言語の関係—. *機能言語学研究*, 6:59–81, 2011.
- [7] 田中 弥生. 児童・生徒作文の日本語修辞ユニット分析と教員評価の検討. In *言語資源活用ワークショップ発表論文集*, volume 3, pages 91–104. 国立国語研究所, 2018.
- [8] 宮城 信・今田 水穂. 『児童・生徒作文コーパス』の設計. *第7回コーパス日本語ワークショップ予稿集*, (2):223–232, 2015.
- [9] 佐野 大樹. 日本語における修辞ユニットの方法と手順 ver.0.1.1—選択体系機能言語理論 (システムミック理論) における談話分析— (修辞機能編), 2010.
- [10] 佐野 大樹. 特集選択体系機能言語理論を基底とする特定目的のための作文指導方法について—修辞ユニットの概念から見たテキストの専門性. *専門日本語教育研究*, (12):19–26, 2010.

A 付録

表4 がんばった作文 中学年 (SF 発話機能 CE 中核要素 EO 現象定位)

テキスト	SF	CE	EO	修辞機能	指数
今ぼくのがんばっていることはモーグルです。	命題	状況内; 非参加	現在; 習慣的・恒久	観測	8
何にむかっているかという、こうにん大会のB級大会ゆう勝です。	命題	状況内; 非参加	現在; 習慣的・恒久	観測	8
どうしてかという、今年は、はじめてなのでB級ぐらいは、ゆう勝したいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
なので、まい週まつはウイングヒルズスキー場か立山山ろくのごくらくスキー場ですべてしています。	命題	状況内; 参加	現在; 習慣的・恒久	自己記述	7
ぼくの入っているチームは、コーチが多くていろんなコーチが教えてくれるのでおもしろいです。	命題	状況内; 非参加	現在; 習慣的・恒久	観測	8
でも1人こわいコーチがあります。	命題	状況外	現在; 習慣的・恒久	説明	13
それは、お父さんです。	命題	状況外	現在; 習慣的・恒久	説明	13
どうしてかという、少しでもまちがえると、「ダメ」と言われるのでこわいです。	命題	状況外	現在; 習慣的・恒久	説明	13
でも、できると、ほめてくれるので、そんなお父さんがすきです。	命題	状況内; 参加	現在; 習慣的・恒久	自己記述	7
これからもいっぱい練習して来年はA級大会予せんとなつたいので練習をいろいろな所でやって	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
しょうらいはオリンピックをめざしたいとおもうのもっともっと練習したりしてがんばりたいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
もっとモーグルの人にしみしんでいきたいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
もっとモーグルをがんばりたいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4

表5 ゆめ作文 中学年 (SF 発話機能 CE 中核要素 EO 現象定位)

テキスト	SF	CE	EO	修辞機能	指数
わたしは、しょう来、美ようしさんになりたいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
どうしてかという、テレビで外国の人がかみの毛で、絵を書いていてわたしもやってみたくて思ったからです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
他にも、かみの毛をカットしたりパーマをかけたりして、お客さんのかみをきれいにしたいからです。	命題	状況内; 非参加	現在; 非習慣・一時的	実況	2
さい近わたしはたくさんゆめをみます。	命題	状況内; 参加	現在; 習慣的・恒久	自己記述	7
たのしいゆめ、こわいゆめなどみます。	命題	状況内; 参加	現在; 習慣的・恒久	自己記述	7
わたしは、こわいゆめがいやなので、なるべく楽しいことを考えてからねます。	命題	状況内; 参加	現在; 習慣的・恒久	自己記述	7
でも、こわいゆめを見ってしまうことがあるので、どうしてゆめを見るのか不し議になるので今度調べたいと思います。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
もう一つなりたいゆめがあります。	命題	状況外	現在; 非習慣・一時的	報告	9
それは、かんごし・医者になりたいです。	命題	状況内; 非参加	未来; 意図的	状況内予想	5
本・紙聞などに世界中で病気やしょう害などでたいへんな思いをしていると書いてあるのでその人たちをたすけたいからです。	命題	状況内; 非参加	現在; 非習慣・一時的	実況	2
その他にも、病気を予防する注しゃなどもつくってたいへんな思いをする人を少なくしてあげれるといいな～と思います。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4
そのためには、勉強などをたくさんして、ゆめにむかってがんばりたいです。	命題	状況内; 参加	未来; 意図的	計画	4